

日程：9/7,9/8

場所：JAVA SPRING WATER 工場敷地内宿泊所

参加者：

鈴木由路 / JHF 競技委員会

Ersy Nuzul Firman / IHPA Secretary

ROY / IHPA Senior Instracter

Jung Dae Lee / KHPA Master Instracter

Chesley / フィリピン HG パイロット

インドネシア HG パイロット 3名

韓国 HG パイロット 2名

議論内容：

初日

1.CIVL regulations.

→私が「"Sporting Code Section 7A HG Edition 2013"を参照したところ大きく外れている部分はない。」と発言。

現状満たしていない部分に関しては今後解決していく。

2.Category of competition. One or two ?

→この問題は大きな争点となった。

インドネシア、韓国はカテゴリー1に前向きな意見。

日本 HGPG 連盟として私も「もしカテゴリー1で開催するならば、滞りのない運営と徹底した安全管理が必要。FAIの規約をしっかりと満たさなければならない。」と発言した上で「必要な部分は満たすことが可能だと思うので、カテゴリー1での開催は問題ない。」と発言した。

Ersyさんの情報で「タイのフライヤーがアキュラシー大会みたいなものが良い。」と言った情報もあったので、「アジア各国のフライヤーを集めることが目的ならカテゴリー1もしくは2のような大会である必要はない。」と発言した。

それに対して、インドネシア協会 Royさんが「大会をやるならばアジア全体のレベルを上げる為に、可能ならばカテゴリー1で行こう。」と発言。

韓国 Leeさんもそれに賛成し、私も反対する理由はなかったので賛成した。

カテゴリー1の開催が問題ないと判断した理由について。

判断材料のひとつとして、FAI セクション 7Aの規定に書かれて対して満たすことができるかどうかで判断しました。

(細かいニュアンスまでは読みきれていませんが)

そして、エリアに危険性はないか？オーガナイザーが Forbes や Montecucco のオーガナイズレベルに近いオーガナイズができそうか？

を考え、「著しい欠点はない」と判断したので「総合的に可能である」と結論付けしました。

3.Type of competition/type of task ?

→パイロンレース、ゴールタスク

4.Class of glider ?

→スポーツクラスの参加枠も設ける方向。

5.When ? Schedule ? How many days of competition ?

→時期は9月頃。日数は「練習日含む7日間で妥当」と各国が発言。

6.Pilot qualification to join the competition.

→私が「これはとても重要な課題である」と発言。各国とも「日本とインドネシア・韓国、インドネシア・韓国と他アジア諸国とのレベルのギャップが大きい」ことを認識。

参加条件に良案が出なかったなので、今後の検討課題とする。

7.What improvements to be made in Telomoyo or Joglo Hill ?

→Wonogiri(Joglo)に関してはメインランディングが木で覆われてしまった為、開催地としては難しい。

Telomoyo に関しては、○ランチャー台の補修・新設○セットアップゾーンの草刈○メインランディングの確保
○山上げ問題(運営側が山上げの車を手配すると提案)

8.Competition fee for every pilot.

→話合わなかった。

9.Joint organizing committee.

→インドネシア協会 Ersy さんから各国から数人集めたプロジェクトチーム結成の提案があった。

10.Who is going to be the meet director ?

→話合わなかった。

他

○今後のスケジュールとして、2016年にカテゴリー1の開催を目指して動く。

2015年はカテゴリー2でプレ選手権。

そして2014年9月にカテゴリー2の大会を開催し、各国の反応をみて2016年をカテゴリー2に変更するか再検討する。

○選手の参加条件をどうするか？

(日本と他の国でGAPが大きすぎる)

二日目

○本当にカテゴリー1にする必要があるのか？

各国代表が自国へ帰った際にカテゴリー1に賛成か反対かを議論する。

インドネシア、韓国、日本、オーストラリア、ニュージーランドの 5 カ国が一致でカテゴリー1 なら 2014 年 2 月にカテゴリー1 申請する。

オーストラリア、ニュージーランドにはインドネシア協会から連絡する。

もし 1 国でも反対があれば、5 国一致した時点で CIVL にカテゴリー申請する。

例えば、2014 年 2 月の CIVL 会議までに 5 国一致できず、2014 年末に 5 国一致した場合、2015 年に CIVL に申請し、2016 年にプレ大会、2017 年アジア選手権の開催と言ったようにスケジュールを組みなおす。

<今後の検討課題>

○選手の参加条件をどうするか？

○2016 年アジア選手権(カテゴリー1)を開催するべく、2014 年 2 月の CIVL 会議にカテゴリー1 申請をすることに対して、JHF として賛成か反対かを論議する。